

## 財政状況について

2019 年 12 月 26 日

日本NPO学会副会長 早瀬 昇

### 1. 総括

- ① 2019年度11月収支実績では、事務局業務委託業者の移行手続きに予想以上に時間を要し、会費請求のDM送付が10月末にずれ込んだことから、昨年同期に比べ、会費収入が大きく落ち込んでいる。
- ② 一方、6月の年次大会には多くの参加者を得ることができ、龍谷大学から会場の無償提供、基調講演講師料のご負担、さらに多額の助成金を得たこともあり、さらに概要集のPDF化で支出を抑えたことから、年次大会単独での収支は約9万5千円の黒字とすることができた。
- ③ 11月末時点で学会誌、ニューズレター、スタディグループ活動助成、事務局業務委託費などの支出がなく、理事の旅費支出も少なかったことから、支出が昨年同期に比べ約229万円少なかった。このため、当期収支は約198万円の黒字となった。

### 2. 収入

- ① 会費納入依頼の発送が遅れたことから、昨年同期に比して、大幅な減収となっている。もっとも、9月末までの累計73万円、10月入金 7万5千円、11月入金 214万5千円という状況で、依頼後は順調に会費の納入が進んでいる。来年1月と3月に未納者への督促状を発送し、会費納入の促進を進める。  
なお、年次大会時に新入会者の大会参加費を免除し、また9月に開催された「ファンドレイジング日本」に合わせて入会パンフレットを作成し、会員の増大に努めた。
- ② 年次大会では、龍谷大学から多額の助成金を得たことに加え、2日間で234人の参加者を得ることができ、約175万円の収入を得た。

### 3. 支出

- ① 事務局人件費は、引き継ぎのため6月まで徳島・仙台で平行業務を行ったものの、7月以降は平均月5万円弱にとどまっており、11月末時点で昨年同期に比べ19万円少なくなっている。
- ② 11月末時点で、学会誌、ニューズレターの発行がなく、年次大会概要集をPDF配信とし、移行の遅れから事務局業務委託費の請求もなく、スタディグループ活動助成の応募もなかったことから、人件費を除く事業費の支出は前年同期に比べ約145万円少なくなっている。
- ③ 管理費についても、理事の旅費支出が少なく、選挙に関わる支出はまだないことから、前年同期に比べ約65万円、少なくなっている。